

1. 不祥事根絶に向けた本校の取組方針

- (1) 継続的に当事者意識を持って不祥事根絶に取り組む。
- (2) 法令を遵守する。
- (3) 生徒の人権を尊重する。
- (4) 教職員が互いに敬意と信頼に基づく職場環境を築く。

2. 本校で考えられる不祥事とその未然防止に向けた取組について 分類(無知、過失、故意、確信)

テーマ	《本校の現状と課題》 (考えられる不祥事)	分類	《原因や背景》	《行動目標》	《未然防止に向けた個別取組》
不適切発言	<p>休み時間や放課後に職員室を来訪する生徒が多く見られる。また、面談の機会も多く、生徒との会話の機会が多い。故意でなくとも、不適切な発言をしてしまう事が考えられる。</p> <p>また、部活動等の指導において、人権に配慮できない強い指導が行なわれる事も考えられる。</p>	<p>無知</p> <p>無知</p> <p>過失</p> <p>確信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冗談のつもりで言ってしまった。 ・相手のこと(背景)を知らずに言ってしまった。 ・つい口が滑ってしまった。 ・生徒をよりよい方向に導こうとして、配慮に欠けてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ言葉でも受け取る人によっては、著しく傷つくことがあるので、相手の立場で物事を考える。 ・教員の発言には、少なからず影響力があることを自認する。 ・自分の周囲で不適切な発言があった場合は、積極的にフォローする。直接言えない場合は、第三者に相談する。 ・社会の変化に学校も順応する。(同性同士なら許されるとは思わない) ・自分の発言が意に添わず後に切り取られてしまうことを想定し、発言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や各種調査等を通して、学校生活だけでなく、家庭での様子も把握するように努める。得られた情報は学年だけでなく広く共有できるようにする。 ・できるだけ複数で面談や指導に当たるなどして、不適切な発言があった場合にフォローできる体制を作る。 ・普段からよりよい人間関係を築いて、風通しの良い職場環境をつくる。 ・研修の機会を設ける。 ・

テーマ	《本校の現状と課題》 (考えられる不祥事)	分類	《原因や背景》	《行動目標》	《未然防止に向けた個別取組》
情報漏洩	<p>休み時間や放課後など、生徒が自由に職員室に入ってくる様子が見られ、机上やPCの画面から個人情報がみられる可能性がある。</p> <p>また、情報共有を活発にすることで、職員室内で個人情報等の話がなされ、隣の部屋や廊下等に声が漏れているかもしれない。</p> <p>各教室のプロジェクターやスクリーンの設置で、PCを用いた授業が進んできていることで、スクリーンに個人情報が映し出される心配がある。</p>	<p>確信</p> <p>無知</p> <p>過失</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が机上やPCを覗くはずがないという思い込みがあった。 ・個人情報に対する認識の甘さ。 ・近くに人がいるとは知らずに話してしまった。 ・電話の話し声が、大きくなってしまった。 ・個人の一人一台PCを教室に持ち込んで授業をしている。 ・知らない間に業者等が職員室に入ってきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室には大量の個人情報があり、机上やPCの画面は、誰かが見ているかもしれないという認識を持つ。 ・常に周囲に気を配り、情報管理の意識を高める。 ・情報モラルを教員間で共有する。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を職員室に入れる際には、声をかける。 ・机や棚の整理整頓を心掛ける。特に、席を離れる際、机上に個人情報がないか確認する。 ・後ろから個人情報が見られないような机のレイアウトにする。 ・定期的（月1回以上）に、不要な個人情報はシュレッダーにかけ、文書の整理を行う。また、データファイルについても整理する。 ・情報機器の取り扱いについてのマニュアルを順守する。 ・情報漏洩についての研修を実施する。 ・業者には入り口で名乗ってもらう。

テーマ	《本校の現状と課題》 (考えられる不祥事)	分類	《原因や背景》	《行動目標》	《未然防止に向けた個別取組》
交通事故	本校の職員は大半の者が、自家用車で通勤をしている。また、周囲の道幅は狭く、バスや送迎の保護者の車、生徒の自転車や歩行者などが朝の時間帯や放課後の時間帯に集中するため交通事故が起きやすい状況にある。	過失	<ul style="list-style-type: none"> ・時間的に余裕がなく、不注意になる。 ・交通の便が悪く、送迎を禁止しても守られていない現状である。 ・自転車の危険運転など、予測不可能な行動も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に余裕を持って行動する。 ・校内では徐行を厳守する。 ・事故が起きた場合には、適切に対処し、警察や管理職に速やかに連絡する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを遵守する。 ・送迎は原則禁止である事を保護者に周知徹底する。 ・朝の時間帯などで、学校周辺の道路を一方通行にするなど、地域や保護者の方にも協力をしてもらう。
SNSの取り扱い	<p>インスタグラムなど SNS の情報を、生徒や保護者が閲覧できる状態になっている場合が考えられ、個人情報流出する可能性がある。また、職場への不満等の書き込みから、学校への不信感が生まれる可能性が考えられる。</p> <p>コロナ禍で Classroom の活用が進んだ反面、不適切な内容がアップされる可能性がある。</p>	無知 過失 無知	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が教員の SNS を知っている。 ・SNS に対する知識や不特定多数に見られる認識不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に、教育公務員としての自覚を持つ。 ・きちんとした知識を身に付けて責任を持って管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不必要なものは削除する。 ・鍵をかけるなど、情報の管理を徹底する。 ・Classroom の投稿を複数の目でチェックする。
テーマ	《本校の現状と課題》 (考えられる不祥事)	分類	《原因や背景》	《行動目標》	《未然防止に向けた個別取組》

<p>体罰</p>	<p>頭髪指導等の生徒指導において、頭部や髪の毛に触れる機会が考えられる。 また、部活動における指導でも生徒に触れる機会が考えられる。 生徒指導における言葉使いが威圧的になり、言葉の暴力になり得る可能性がある。</p>	<p>無知 過失 確信 過失 確信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体罰のつもりではなく、頭部や髪の毛に触り、体罰として受け取られた。 ・信頼関係が築けていたと思いついでいた。 ・指導する側とされる側といった上下関係から、威圧的な言葉を使ってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には基本的に触らないようにする。 ・生徒に対して、一人前の人間としての対応を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に触れる前には、「ちょっと触るよ」など一声をかけるようにする。 ・アングーマネジメントを心掛ける。 ・他の教職員がフォローできる体制を作る。 ・大勢の前で指導されることを過剰に嫌がる生徒もいるので、できるだけ避ける。
<p>わいせつ行為</p>	<p>指導の際、生徒にかなり近づく、肩をポンポンと軽くたたく等の行為が考えられる。また、体育や部活動において、けがの処置やストレッチの場面などで生徒に触れる場合が考えられる。</p>	<p>確信 無知</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係があると一方的に考えていた。 ・指導に対して生徒の理解が得られていなかった。 ・教員のわいせつ行為に対する認識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わいせつ行為に対する認識を深める。 ・生徒一人一人を複数の先生とつなげる。 ・わいせつ行為につながる環境をつくらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わいせつ行為に対する研修を各自が実施する。 ・指導の際には目的を説明し、身体に触れる場合は声をかける。また、同性の教員や生徒に協力してもらう。 ・複数の教員で指導にあたる、部屋のドアを開けておくなど、密室にならないようにする。
<p>テーマ</p>	<p>《本校の現状と課題》 (考えられる不祥事)</p>	<p>分類</p>	<p>《原因や背景》</p>	<p>《行動目標》</p>	<p>《未然防止に向けた個別取組》</p>

<p>酒席規範・飲酒運転</p>	<p>本校は交通が不便な立地にあるため、自家用車で通勤している職員が大半である。そのため、懇親会場へ職場から直接行って、アルコールを摂取し飲酒運転をすることが考えられる。 学校外で、酒席で気持ちが大きくなって常識を逸脱した行動になる</p>	<p>確信 無知 故意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分では仮眠・休憩を十分取ったつもりでいたが、酒気が残っていた。 ・翌朝まで酒気が残っていた。 ・アルコール分解にかかる時間や量についての知識が不足していた。 ・近距離の運転なので大丈夫だと思った。 ・小規模、プライベートな飲み会で気の緩みがあった。 ・アルコールにより気持ちが大きくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒後は絶対に運転しない。 ・翌朝でもアルコールが残る、二日酔い等も考えられるので、体調面を考慮して無理に運転をしない。 ・アルコール・ハラスメント（無理に進める、酌を強要する等）に気を付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒後に運転をするような予定は入れない。 ・公共交通機関、送迎、代行運転など、飲酒後の帰宅方法を決めておく。 ・飲酒を勧めないなどの雰囲気づくりを心掛ける。 ・翌朝までアルコールが残らないように、自分のアルコールの適量を知り、飲酒量や時間帯を考慮する。 ・ストレスをためない。 ・私生活を充実させることで、守るべきものをつくり、抑止力とする。 ・研修の実施。
------------------	--	-----------------------------------	---	---	--

3. 本年度の組織としての具体的な取組について

(1) 本年度の組織取組方針

2で示した本校で考えられる不祥事等について、職員が継続的に意識できるような組織としての取組を実践する。

(2) 令和5年度取組からの変更点

- ・各学期に職員に対して「不祥事防止チェック」を実施するが、そのチェックリストの項目の経年変化だけでなく、その時期に啓発すべき項目を新設する
- ・安全運転意識強化対策である3人グループで参加する「無事故・無違反チャレンジ1. 2. 3」の取組推奨を終了